



開校明治七年
開校146年目

宗岡小だより

学校教育目標

自分がすき・友だちがすき・町がすきな宗小の子

育てる子供像 地域を愛し、誇りをもって、地域に貢献する子供

めざす学校像

「安全・安心できれいな学校」
「子供達一人一人の居場所があり、輝ける学校」

令和2年12月号

志木市立宗岡小学校

児童数 456名・学級数 18学級

住所 志木市中宗岡3-1-1

TEL 048-471-0307

12月の生活目標

学校のきまりを
ふりかえろう

- ・二学期のまとめをしよう
- ・宗小のきまりを反省しよう

心の中の「優しさ」を

校長 石田 賢一

11月17日(火)、18日(水)の2日間、6年生が日光方面へ修学旅行に行って参りました。新型コロナウイルスの影響で多くの学校行事が中止や規模縮小で開催されている中で、保護者の皆様やホテル、バス会社などの多くの方々のお協力のおかげで、実施することができました。子供達は中禅寺湖や華厳の滝など日光の雄大な自然や日光東照宮の陽明門や足尾銅山など歴史的な文化財に触れ、感動していました。

今年度は「協力しながら、日光を楽しもう」を修学旅行のテーマにし、子供達自身が健康安全に気を付け、集団での行動の決まりを守って生活していました。1泊2日という普段の学校生活とは違う環境で、観光地での活動やバスやホテルの中、食事やお風呂などの様々な場面で子供達が互いに助け合うことで、友達の新たな一面を発見し、相互理解を深めていました。2日間大きなトラブルもなく子供達が過ごすことができたのは、子供達の中に相手を思いやり考えることができる「優しさ」があったからだと思います。

詩人・書家の相田みつを氏の作品に「セトモノ」という詩があります。数年前にテレビCMでも流れていた詩なので、知っている方も多いかもしれません。

この詩について私なりの見解を述べさせていただきますと「セトモノ」とは瀬戸物いわゆる陶器のことで、これは相手のことよりも自分のことを一番に考え、自分の非を認められない人の心を表していると思います。一方で「やわらかいところ」とは、自分のこと

が好きで大切にすけれど、同じぐらい相手のことも好きで大切にできる人の心を表していると思います。それぞれを簡単に表すと「セトモノ」は、「自己中心的」、「自分勝手」、「わがまま」というところでしょうか。また、「やわらかいところ」は「包容力」、「寛容」と色々当てはまると思いますが、「優しさ」という言葉が一番しっくりくるのではないのでしょうか。

今回の修学旅行のような行事でも、普段の学校生活の中でも子供達同士の意見や考えが違い、ぶつかり対立することはあります。このときお互いが「自分は正しい、相手は絶対に間違っている」という心だったら、喧嘩になってしまい何も生み出しません。しかし、お互いに相手を認められる優しさがあれば、衝突することもなく、この対立がお互いを高めるきっかけになるかもしれません。

学校における集団生活の良さは、子供達が多くの価値観に触れ合うことができ、他者の考えや意見から自身の考えを深め、より成長することができる点です。その基本となるのは、心の中の「優しさ」です。つまり、一人一人の違いを認め尊重する「人権」への意識が大切だと考えます。

宗岡小学校では、子供達の人権意識を高めるための活動に道德の時間をはじめ様々な教育活動で取り組んでおります。特に12月10日は世界人権デーであり、12月4日～10日は人権週間となっております。人権週間期間中は特に学校全体で子供達の心の中の「優しさ」を伸ばすことができるよう意識してまいります。是非、各ご家庭においても子供達に「一人一人の違いを認め尊重することが大切なんだよ。」とお話しいたしますよう、お願いいたします。

セトモノ
セトモノと
セトモノと
ぶつかりつこすると
すぐこわれちゃう
どっちかやわらかければ
だいじょうぶ
やわらかいところを
もちましよう。
そういうわたしは
いつもセトモノ。
みつを